

ネクストスター盛岡

2歳・ダート1400m M1
10月12日(日)盛岡競馬場
昨年の優勝馬・ポマイカイ



未来優駿2025/JRA認定競走/日高軽種馬農業協同組合 ダーレー・ジャパン協賛

第3回 ネクストスター盛岡 (M1) (タリスマニック賞)

盛岡競馬場/2歳・ダート1400m

10月12日(日) 第10競走 17:15発走

『ネクストスター』競走は全日本的なダート競走の体系整備に際して2歳秋および3歳春に新設された高額賞金の重賞級認定競走で、2歳戦では『ネクストスター〇〇』、行われる競馬場の名称を入れた形になっています。岩手での『ネクストスター盛岡』は今年で3回目。第1回はフジュージーン、第2回はポマイカイが制して両馬ともその年度の岩手2歳最優秀馬に選出されたように、2歳世代の重賞戦線の中で重要な位置を占めるレースになっています。

■ディオニス(牡2 水沢・佐々木由則厩舎)



ここまで2戦2勝の素質馬が重賞初挑戦。今回は出走馬のほとんどが重賞出走経験あり、それも上位に入った経験を持っている中での初重賞出走は厳しくも見えるが、5月の新馬戦ではキララカを10馬身引き離して圧勝し、その勝ちタイムも同じ日のもうひとつの新馬戦より速い・・・セイクリスティーナよりも1秒5速いものだったと言え侮れない存在だと分かるだろう。ここでどんな走りを見せるか注目だ。

「前走後はここ直行は予定通り。前走時は休み明けでしたが今回は適度な間隔で状態は前走より良いと感じます。砂を被る競馬も経験したので1枠も大丈夫でしょう(佐々木由則調教師)」

■フォーティチュード(牝2 水沢・伊藤和忍厩舎)



デビューは門別、新馬戦は2着だったものの返す刀の2戦目ですんなり初勝利。前走9月29日に岩手転入初戦を迎えてここも勝ち切った。その前走は直線の叩き合いを制した点は高く評価できる一方で時計面ではもう一段階の上昇が欲しいというのが正直な所だが、門別で僅差で戦っていた馬たちはその後各地に散らばり重賞級の活躍をしつつある馬も少なくない。本馬にもまだ伸び代があると思うのが妥当だろう。

「前走はよく勝ちきってくれたと思いますが、今回はメンバーが強くなりますね。内枠で馬場状態も向いてくれそうですし、状態もいいので頑張ってもらいたいです。（伊藤和忍調教師）」

■ロジータサンライズ(牡2 盛岡・齋藤雄一厩舎)



本馬も門別デビュー組で、5月の新馬戦4着から2戦目の末勝利戦で初勝利を挙げたのはフォーティチュードと似たキャリア。そして新馬戦で本馬を破ったミモザノキセツはその後名古屋に移籍して上級認定戦を快勝等、実力馬と戦っていた点もまた同様だ。門別時代は揉まれにくい少頭数の距離を狙っていた部分があり、ここでは11頭立ての内枠が課題になるだろうが、ここを突破できるならこの先の展望も大きく広がってくる。

「前走はゲートを出たところで挟まれたそうで結果は参考外。スムーズならもっとやれていいと思います。左回りも問題ないし展開が向けば面白いでしょう。（齋藤雄一調教師）」

■フォーエバートライ(牝2 盛岡・永田幸宏厩舎)



新馬戦で破った相手はあのセイクリスティーナ。2戦目の水沢戦で敗れてややリズムを崩した感があるが、のちの重賞3勝馬を寄せ付けなかった走りは輝きを失っていない。

その時以来勝ち星には手が届いていないが前走にしても前々走にしても世代トップクラスの強豪を相手にしっかり食い下がり、差も縮めてきている。現状はまだ時計の差がはっきりとはしているが、いずれそれも詰めてくる力があると期待したい。

「水沢戦はスキップしてここに備えました。その分しっかり調整ができたと思います。このところレースでかかり気味なので折り合いさえ付けば良い競馬ができるのでは。（永田幸宏調教師）」

■ラブコラージュ(牝2 水沢・菅原勲厩舎)



今年の岩手競馬の2歳新馬勝ち第1号。それも2着以下に2秒4、大差を付ける鮮やかで派手なデビューを飾った。その後の2戦が大きく崩れた結果にはなったが成長期の夏を迎えて復調ムード、9月の水沢戦では前走重賞3着だったセロームを破って鮮やかな復活を遂げた。新馬戦の走りを思い返せばむしろこれが本馬の本来の力だろう。その後一頓挫あったが今なら苦しかった時期の姿は重ねなくていいはず。

「出走取消の影響はありません。現時点では逃げて力を発揮する馬だと思いますし、先行馬が揃ったここでは展開面は楽ではないでしょう。（菅原勲調教師）」

■キララカ(牝2 水沢・菅原勲厩舎)



新馬戦はディオニスの2着だったが単勝2番人気に推されていた事で分かるとおり本馬も能検の頃から注目を集める存在だった。その後はここまで8戦して勝ち星は二つにとどまるが重賞を含めて掲示板を外しておらず、やはり地力・素質ある一頭なのだと思うされる。現時点では勝ち負けとなれば展開の助けも必要に思えるが上位争いに加わるという事なら必ずしも展開によらないはず。軽視できない1頭になる。

「状態面は変わりなく順調です。自力ではなかなか動けない馬ですし、前走のように展開が向いてくれば。（菅原勲調教師）」

■ラウダーティオ(牡2 水沢・板垣吉則厩舎)



7月の新馬戦の勝ちタイム、盛岡ダート1000mで1分00秒6は今年の2歳戦の中で4位に当たる好タイム。それも素晴らしいものだが、2戦目のジェイエルビットらを破ったレースの勝ちタイムがその時点で盛岡ダート1400m・2歳馬のものとして1位。世代トップクラスの新星登場を思わせる好内容が目を惹いた。前走ビギナーズCもレジェンドバローズにこそ跳ね返されたが2着は問題無く確保。ここではタイトルの座に最も近い馬になった。

「レース間隔を取った分思い通りの調整ができました。展開も、控える競馬も考えていますし、あとはゲートを出てからどういう形になるかでしょう。（板垣吉則調教師）」

■コンバットスネル(牝2 水沢・三野宮通厩舎)



今回の出走馬中では唯一の未勝利馬。しかし2戦目ではレジェンドバローズから4馬身半差の3着、前走はキララカに1馬身差の2着。新馬戦もラウダーティオに敗れた物。要はここまでぶつかった相手が強かった故に勝ち星を手にしていない・・・と言えるだろう。そんな強敵たちとの再戦となるここは楽な戦いにはならないだろうが、これまでよりも差を詰めてきて不思議はない。

「前走は良い競馬をしてくれましたが、今の時点では水沢の方が良いのかも。牝馬らしく難しい所もあるのでしょうが、力はある馬だと思います。（三野宮通調教師）」

■イタズラベガ(牝2 水沢・菅原勲厩舎)



ここまで重賞では2着1回・3着1回。いずれもセイクリスティーナに退けられたが自身も芝・ダを問わずに、また距離も問わない戦いぶりを見せており、敗れたからと言って本馬の評価が下がる事はない。前走は、これも世代の強豪ジェイエルビットと激しく競り合う形になって崩れたが展開としてはレアケース、あれが本馬の力ではないし、ここは大きく巻き返して前走の雪辱を狙っているはずだ。

「前走は苦しい展開になりました。今回は外枠ですが、内側の先行馬を見ながら動けるのはいいはず。盛岡のダートも大丈夫だと思います。（菅原勲調教師）」

■セローム(牝2 水沢・菅原右吉厩舎)



7月、芝1000mの新馬戦では3着、ダートに変わった2戦目は6番人気から快勝して初勝利を挙げた。その時点ではまだ伏兵的な評価だったが、その2戦目の頃から調教が強化されていたようにそこから本格的な成長が始まったと見ていいだろう。その後のビギナーズC3着もその上昇ゆえの結果であってフロックではないはずだ。祖母カーラパワーからはダノンシャーク・レイカーラなどが出ている良血の血筋。まだまだ奥がある馬と考えたい。

「小さい馬ですし、これまでは少頭数の競馬が多くて揉まれる経験も少ないですからね。それだけに外目の枠から揉まれず流れに乗れば良い走りをしてくれるのでは。（菅原右吉調教師）」

■トゥーナスタディ(牡2 盛岡・齋藤雄一厩舎)



JRA挑戦を選択した前走・芙蓉Sは結果9着に終わったもののJRA勢に互して先行できるスピードを示した。芝の若鮎賞・ジュニアGPでセイクリスティーナに迫った実力は伊達ではなかったということだ。その後はJRA挑戦を続戦のプランもあったが相手関係を考慮して地元戦を選択。ここまで3勝中の2勝がダート、舞台が変わっても軽視は禁物。

「再度の遠征も考えましたが今回はこちらへ。やはり芝の方が良い馬でしょうからダートでこのメンバーでどれだけ力を出せるか、でしょう。（齋藤雄一調教師）」